

概況

1 畜種別取扱高

平成6年中の東京都食肉市場における畜産物の総取扱高は、頭数50万1千余頭、重量9万6百余トン、金額931億9千余万円となっており、前年と比べると、重量で1.2%増となったものの、頭数で2.5%減、金額で1.1%減であった。

畜種別にみると、牛の取扱高は、頭数13万4千余頭、重量5万9千余トン、金額800億5千余万円で、対前年比は頭数で1.2%、重量で2.6%それぞれ増となったものの、金額では0.8%減であった。

豚の取扱高は、頭数36万6千余頭、重量3万1千余トン、金額131億1千余万円となっており、対前年比は頭数で3.9%、重量で1.5%、金額で2.5%それぞれ減であった。（※参照 表1）

2 産地別取扱高

牛では、頭数・重量は、千葉県が2万5千余頭、9千百余トンを取り扱い、16年連続の第1位であったが、前年をやや下回った。東京都食肉市場全体に占める割合（以下、この項において「構成割合」という。）は、それぞれ18.6%、15.5%に及んでいる。第2位栃木県、第3位宮城県は、前年実績を上回った。

金額は、宮城県が岩手県と入れ替わって第1位となったものの、前年実績をやや下回り99億8千万円であった。また、構成割合は12.7%となっている。以上の四県に茨城県を加えた「五県」の構成割合は、頭数で62.3%、重量で55.7%、金額で56.6%と半数を超えている。他では、北海道が前年と比べ、頭数41.5%、重量42.8%、金額44.6%と大幅な伸びを示した。輸入部分肉は、前年実績の重量で98.7%、金額で96.3%であった。第1位オーストラリア、第2位米国の2カ国で重量全体の99.0%を占めている。

豚では、岩手県が頭数・重量・金額とも前年実績を10%以上下回ったものの第1位を確保した。第2位千葉県、第3位茨城県を加えた「三県」の構成割合は、頭数59.2%、重量53.1%、金額51.4%となっている。他では、栃木県が頭数・重量・金額とも前年を20%以上増加した。豚の輸入部分肉の取扱高は、重量・金額とも僅かであるが、対前年比では大幅に増加した。（※参照 表1～2）

3 年間市況

牛の全国取引頭数(成牛)は、152万1千余頭で対前年比1.9%増となっており、このうち東京都食肉市場の取引頭数は、13万4千余頭で全国取引頭数の8.9%を占めている。

年間平均価格は、1kg当たり1,333円で、前年に比べ3.3%・45円安となっている。これを月別にみると、1月は1,313円と前年同月より74円安く始まり、2月以後5月までは同様に前年同月を下回り、1,200~1,300円台で推移し、5月に年間の最安値1,240円を付けた。6月以降は、やや上げ基調となったものの前年同月比では下回り、1,300円台前半の動きで推移した。年末需要に支えられる12月は、前年同月比56円安の1,499円であった。年末を除くと平均価格はほぼ1,300円台前半で推移しており、前年と比べ弱含みであった。

豚の全国取引頭数は、前年比2.6%減の1,864万9千余頭となっており、このうち、東京都食肉市場の取引頭数は、36万6千余頭で全国取引頭数の2.0%を占めている。

年間平均価格は、1kg当たり410円で、前年に比べ1.2%・5円安くなっている。これを月別にみると、1月は安値傾向の前年に続いて前年同月比41円安の352円で始まり、2月から5月までは400円すれすれで推移し前年同月を下回っていたが、需要期の6月以降9月までは450円を超え、前年同月を上回る動きであった。この間、7月に486円と年間の最高値を付けた。10月以降は値を崩したが、前年同月を上回った。